

ティーと名づく。当時邸内物置の天井なき二階（アチック＝屋根裏）を標本室とし動植物や化石標本等をもちよしが初め。当初は郷土玩具の研究等に重点が置かれた。

大11 14歳

三月二〇日 西方小学校卒業。

家で農業に従う。夜は梅田先生の許に通い勉強。本を持っていると聞くと仕事の帰りや、夜借りに行き、村にある目ぼしい本はたいてい読んだ。講義録も熱心に読む。神戸の叔父が修養団に入れてくれる。

15歳

八月 安下庄町で行なわれた郡内中堅青年講習会に出席。

この時に行なわれた雄弁大会に出て喝采を博した。出席者中一番年少であった。講習を終えて帰村し、直に講演会を開いた。会場は蚕の共同飼育所。講師は升田仁助海軍大尉、後藤佐四郎先生。この時、宮本は青年会館の必要を説き、これがきっかけとなって二〇〇余名収容の会館が建設される。

秋 講義録とり終える。

*この頃から和歌を作りはじめる。

「新国民」に投書、一年下の組の者が作っていた回覧雑誌によく書かされ、また大島郡教員有志の雑誌「みどり」にも時々文章を載せて貰った。

柳田（47歳）
一橋如水会館で南東談話会を開く。五月、国際連盟委任統治委員会の仕事のため二度目の渡欧に出席。
洗濯（26歳）
Y S B ロンドン支店転任のため神戸出帆。

大12 15歳

二月 青年会幹事に当選。

一七歳（数え年）の幹事は村でも未曾有の出来事であった。

三月二七日 祖母脳出血にて逝去

四月 姉が女学校の編入試験を受けて行く事になり、宮本も志を父に告げ、承諾を得て上阪。
春雨の降る日、多くの友人に見送られての首途であった。父は大島の駅まで送ってくれた。

四月 大阪に出る。

大阪市北区中江町市場の叔父音五郎の家に寄宿し、

大正11（一九二二）年

22 ワシントン軍縮条約に調印、戦艦土佐など九隻の建造中止

22 千葉県安房郡で切り花栽培開始
22 揚水、脱穀、初摺り、精米の動力機械化始まる

22 一粒三〇〇m、グリコキャラメル発売
22 「文藝春秋」創刊
22 未成年者飲酒禁止法公布
22 「週刊朝日」「サンデー毎日」創刊

大正12（一九二三）年

23 九月一日 関東大震災

23 動力耕耘機の国産第一号機開発
23 合成アンモニアの製造開始
23 日本航空輸送研究所、志摩半島の沿岸で魚群探索飛行を行う

23 電化ガマ発売
23 背くらべ（歌）
23 黄金虫（歌）
23 かこの鳥（歌）